

ひと

女

ひと

男

と

の情報紙

2007・10月発行

No.

34

華

はな

特集

ワーク・ライフ・バランスを
進めよう!



平成 19 年 2 月 25 日（日）文化会館において男女共同参画社会づくり条例施行記念フォーラムを開催しました。

「女も男も いきいき暮らせる まちづくり」をテーマに、1 部は事例発表、2 部はグループ討議を行いました。参加者は男性 21 人、女性 43 人でした。

（4 面に掲載）



華（名称）の由来

これからの女性が、芯の強い、その中にも優しさ華やかさを忘れず、しなやかな生きかたをめざす願いをこめてつけられました。

〔一般公募〕

仕事と生活のワーク・ライフ・バランスを進めよう！

～女も男も いきいき暮らせる まちづくり～

近年、男女の働き方や家庭生活へのかかわり方についての考え方や事情は大きく変わってきています。「女性は子どもができて働き続けたほうがよい」と考えている人が、男女ともに多くなっています。また、男性は、仕事・家庭・個人のバランスのとれた生活を望む人の割合が高くなっています。特に、子どもを持つ父親が育児にかかわることは、男女ともに必要と考えています。

ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）とは、仕事、家庭生活、地域生活などの様々な活動について、人生の段階に応じて望んでいるバランスで暮らせる状態をいいます。

ワーク・ライフ・バランスについての詳細は、市のホームページ、男女共同参画からご覧ください。



- 1 育児休業の取得はどんな理由から
1歳までは保育所に預けずに、成長を見守りたいという思いからです。
- 2 育児休業の期間は
1年の育児休業を取得しました。
- 3 育児休業期間で大変だったことは
育児休業期間も長男は保育所に行っていましたので、送迎に首の座らない下の子と一緒に連れて歩くことが大変でした。
- 4 育児休業取得での会社の配慮は
育児休業期間は、人材派遣から人の確保をしてもらい、復帰後は、部署を配慮してくれ、社員の方からも協力をいただきました。
- 5 復帰後の戸惑いは
1年も仕事から離れたことがありませんでした

- から、復帰時は仕事を思い出すことで必死でした。
- 6 復帰後、仕事と家庭の両立は
まだまだ両立できているとはいえませんが、会社、家庭などでいろいろな方の協力のもと日々過ごしています。
- 7 ご家族の協力は
実家が遠方なものですから、主人と役割分担をし、子育てしています。
- 8 育児休業を取って良かったことは
育児休業をいただいたことにより、ゆったりと子育てを楽しむことができました。働いている時には縁のなかった友人を沢山ご近所につくることができました。
- 9 その他に何か
子どもの数に比例して病気等で休まざるを得ないことが増え、働く上では周囲の方に本当にお世話になっています。感謝しております。

三郷市役所

男性初の育児休業
「子育てのしあわせ」
30歳代 男性



三郷市役所では、職員一人ひとりが次世代育成を身近な問題として捉え、職場をあげて支援していくことを目的としています。
また、育児休業や部分休業を取得する職員も年々増え、初めて男性が育児休業を取得しました。

- 1 育児休業の取得を決心したことは
私たち夫婦は共働きです。妻は民間企業に勤務していて、少人数の会社なので1年の育児休業を取るならば、退職しなければなりません。私は、以前から育児をしたいと思っていました。

- 2 育児休業の期間は
平成18年7月～19年4月までの9ヶ月間
- 3 子育てについてお話しください
子育ては、オムツの交換、食事を作って食べさせる、着替えをさせる、入浴等すべてひとりでした。検診は、産婦人科です。私ひとりでは、入りにくいので妻と一緒に行きました。
外の用事は、週に1回、私の母に3時間程支援してもらいました。
- 4 子育ての大変なところは
最初の2ヶ月が大変。昼夜かまわず、3時間おきにミルク、オムツの交換で起きるのが辛かったことです。
- 5 ご自分の時間は持てたか
妻が日・月曜日がお休み、その時には多少、外出もしました。
- 6 子育てして感動したことは
子どもの成長の瞬間、寝返り、お座り等の所作が出来た時、また、妻が抱っこしても泣き止まないでいる時、私が抱っこしたら泣き止んだ時は感動でした。
- 7 育児休業を取得して困ったことは
収入が少なくなるので、貯えから補って賄った。仕事は、職場の人が協力的でしたから、困ったことはありませんでした。
- 8 育児休業を取得することに、戸惑いは
まったくありませんでしたし、私が1人目の育児休業取得者とは知りませんでした。
- 9 子育てして変わったことは
我慢強くなった。子育ての共通認識が持てて、さらに夫婦の仲がよくなりました。
- 10 職場に復帰した時の違いは
仕事の手順が変わっていたので、少し戸惑ったが、周りの人も協力的に教えてくれましたので、すぐに取り戻しました。

（株）信公
女性が主役

この会社は、全国調剤薬局に商品の紹介をしています。従業員は20人（男性5人、女性15人）で、女性は会社の戦力です。7・8時間勤務の従業員は学校行事などに参加しやすいように時間単位で有給休暇を取れる制度にしています。残業は極力しない方針で、働く時間を集約したい。福利厚生では、社員旅行は中学生まで一緒に参加できます。

従業員の方々の声

- ・この会社の従業員は、子育て中の女性が多いです。授業参観などは、会社でフォローしてくれますので参加しやすい。
- ・子どものことを優先に考えてくれる。
- ・個々にあわせた時間帯で、働くことが出来るし、時間休もとれるので働きやすい。

（有）猪野運送
個人のしあわせ

会社のコンセプトは、「個人のしあわせ」。仕事と家庭生活の両立が成り立つように、従業員の確保をして業務体制を図っている。勤務体制は、本人の希望で2・3時間勤務から8時間勤務まで融通性を持たせている。学校の授業参観・運動会など学校行事の参加、子供の病気等に休みを取れる、お互いフォローできるようになっています。

従業員の方々の声

（30歳代男性）一時は他企業へ勤め、再び猪野運送勤務。前の会社は残業が多く休日は疲れて寝ることが多かった。ここへ戻って勤務してからは家族で出かけるようになった。平日も会話が増えた。

（30歳代女性）母子家庭です。勤務時間のやりくりができるので、PTA役員をしたり、学校行事に参加できる。（20歳代男性）前の会社は、自分の時間が持てず、一日のすべてが会社の時間だった。ここに勤務してからは、自分の時間が持てるようになった。また、仕事も自分の計画で進められる。

「埼玉県子育て応援宣言企業」
市内事業所2社登録

埼玉県では、従業員の仕事と子育ての両立支援や地域における子育て支援に熱心に取り組む会社・事業所を募集する「子育て応援宣言企業」登録制度があります。三郷市では、（有）猪野運送と（株）信公が登録されています。

宣言内容

- ①育児のための急な休みでも対応できる業務体制づくりを進めます。
- ②子どもの学校行事に参加するための年休取得を奨励します。

「女も男も いきいき暮らせる まちづくり」

平成 18 年 9 月三郷市男女共同参画社会づくり条例が制定され、今年 1 月 1 日に施行されました。

記念事業として、「女も男もいきいき暮らせるまちづくり」をテーマに、1 部は、条例の中で責務としている市民、事業者、市民団体、教育に携わる人、市の 5 つの分野からそれぞれ 10 分程度の発表を、2 部は分野毎にグループ討議を行いました。

【1 部】事例発表

市 民 三郷市みんなで子育て応援

MiKO∞ねっと代表 工藤 トモさん

昨年 11 月 26 日に誕生した子育てネットワーク。「みんなあつまれ 笑顔いっぱい」子育ての苦勞を語り合える場、一緒に子育てをする仲間づくり、地域として応援しています。お父さんの子育てへの参加にも力をいれて、男女が共同で子育てをして、お父さんも仕事以外に、地域社会に目を向けることが、男も女もいきいき暮らせるまちづくりに近づけるのではないかと思います。

事業者 (株)ダスキンプロダクト東関東

代表取締役社長 大坂 正明さん

女性の比率ですが、管理職、職場リーダー、働きさん(従業員)で 58.4%を占めています。平成 16 年 7 月に男女共同参画委員会を発足し「男女がそれぞれの能力を十分に発揮できる環境づくり」を目指しております。活動内容は、①「(株)ダスキ行動計画」の策定・推進、②働きさんの意識改革による女性働きさん活躍推進、③ワーク・ライフ・バランスの推進、④女性育成のチャンス、の 4 つです。

市民団体

谷口南町会長 茂呂 義雄さん

町会では、会員の約半数を占める女性の意見を事業に盛り込むことが町会の活性化に大切と考え、役員をお願いしています。また、男性の役員と一緒に

「グラウンド・ゴルフ会」「いきいきのびのび 21 体操会」「書道サークル」「防犯パトロール隊」を、ボランティア活動しています。私どもの町会は、安全、安心、環境のことを少しずつではありますが、みんなで考え協力し合い、将来のまちづくりを進めています。それが男女共同参画社会の実現につながると考えております。

教育に携わる人 市立鷹野小学校

校長 秋山 敏子さん

男女共同参画の視点に立った学校運営は、男女それぞれの特性を生かして共同して児童生徒の教育にあたっています。女性教諭の割合は、小学校で約 7 割、中学校で約 4 割。女性管理職の数は、28 校中 4 人の校長、2 人の教頭です。学校では、男女共同参画の視点で教育を行っています。しかし、家庭・地域では、昔ながらの考えがまだ残っていて、「男だから縫い物なんてしなくていい」「男のくせに泣き虫なんて」という例があります。男女共同参画は、知識、理解度を確実に推進する責務があります。

三郷市

総務部 男女共同参画推進室長

市は各分野のリーダーシップを取り、自助(自分でできることは、積極的に実施する)、共助(分野で関連することは連携をとって協働する)、公助(市が積極的に実施すること、各分野の支援をすること)等によって、「女も男もいきいき暮らせるまちづくり」男女共同参画社会の実現を目指します。

※ 詳しい内容は、三郷市 HP 掲載

男女共同参画推進市民スタッフ編集後記

紙面で取り上げたように、三郷市内におきましても、ワーク・ライフ・バランスを取り入れている企業があることには感銘をうけました。

男性・女性がお互いの力量を認め相互に協力しながら、地域・社会活動を楽しみ、人生を豊かにしていくためにも、スタッフ一同、ワーク・ライフ・バランスについて、更に勉強し、広く市民のみなさま、事業者の方々に積極的にアプローチして行きます。

メンバー 池内 敏
加賀谷 恵子
永瀬 順子
宮本 篤



一人で悩まず相談してください

～女性相談～

相談日	第 1・2・3 水曜日
相談時間	午前 10 時～午後 3 時
場所	市役所 5 階 502 相談室
相談員	専門の女性心理カウンセラー
相談方法	面談または電話(予約制)
予約受付	男女共同参画推進室



11 月 12 日 ～ 11 月 25 日 は

女性に対する暴力をなくす運動週間です

発行 / 三郷市役所男女共同参画推進室
341-8501 埼玉県三郷市花和田 648-1
TEL 048-953-1111 FAX 048-953-1169